

皆さんのまわりにあるすごいもん、きれいなもん、うまいもん、おもしろいもん、残したいもん…。いろいろなモノ、人、景色などなんでも「上越のもん・上等なもん」略して「上もん」として紹介していきます。

皆さんのおタカラ情報を広報対話課(☎025-526-5111内線1426、FAX025-526-6111、■koho@city.joetsu.lg.jp)へお寄せください。

No.1004

平成27年12月1日発行



春日新田駅跡(春日神社境内、春日新田3)

位置であったからと考えられます。このルート、整備により、信越本線と北越鉄道がつながり、直江津駅が現在の位置に移るまで春日新田駅は、始発駅

「鉄道のまち直江津」を静かに伝える 春日新田駅跡

JR信越本線春日新田踏切のそばにある春日神社の境内に、春日新田駅跡を示す看板が立っています。

「直江津〜新潟間の鉄道の早期開通を望んだ地元有志が中心となり、郵便の父でもある前島密を社長に北越鉄道(株)を設立、3年後の1897年(明治30)、春日新田駅〜鉢崎駅(現在の米山駅)間を開通させ、新潟への鉄道を開きました。春日新田駅が設置された理由は、関川を挟んで新潟と直江津を結ぶルートに適した

として利用されましたが、駅の規模や機関車に関する資料は残されていません。その後、黒井駅が設置され、北越鉄道(株)が国有化になると、9年余りで廃駅となりました」と春日新田駅が謎の多い駅であることを話してくれたのは、牛木幸一さん。長年、鉄道事業にかかわってきた経験から、10月に行われたなおえつ鉄道まつりでは「鉄道のまち直江津」のPR活動もされました。「開業当時の新聞記事では、春日新田駅は盛大な祝賀行事でにぎわったとされます。また、文人、尾崎紅葉は駅を訪れ、旅行記『煙霞療養』で、人力車を引く直江津の女性のたくましさや語っています。このほか、北越鉄道(株)の発注により製造され、当時の春日新田駅からも運行していた230形蒸気機関車が、現在も静態保存されていることを知り、驚きました。車両は昭和10年代に佐賀県鳥栖機関区に配属され、鳥栖市重要文化財に指定

されています。

上越市内には現存する鉄道に関する資料が少ないため、直江津が県内で最初に鉄道の汽笛が鳴ったまちであることあまり知られていないように思います。来年は、直江津に鉄道が開通してから130年を迎えることから、春日新田駅跡のような史跡を通じて、多くの皆さんから鉄道に興味を持っていただき、直江津が鉄道にゆかりのあるまちとして発展してほしいと思います」と熱く夢を語ってくれました。



紹介者
牛木 幸一さん

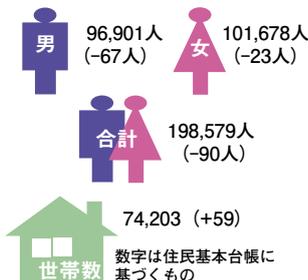


広報対話課から (☎025-526-5111)

●「広報上越12月15日号」は、12月10日(☎)・11日(☎)に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

平成27.11.1現在()は先月との比較



表紙のことは：冬の足音はすぐそこに

本格的な降雪期を前に、市内では消雪パイプの点検が行われました。作業は自動車の通行を妨げないようにしながら、水が出るノズルを一つ一つ丁寧に掃除し水量を調整する時間のかかる作業です。雪国の当地では、雪が積もる中の生活が身近にあります。冬の準備を確実に済ませて、師走して新しい年を安全・安心に迎えましょう。